

セレスポ

The background of the entire page is a photograph of a man and a child running away from the camera on a dirt path. They are silhouetted against a bright, low sun, creating a warm, golden glow. The sky is a clear, pale blue. The path is dark and textured, with some small plants visible on the left.

CERESPO

CORPORATE REPORT **2024**

TOUCH YOUR HEART!

セイコ-ゴールデングラプリ
陸上 2024 東京



セレスポの使命

私たちは、すべての人々に 大切なものをお届けします。

セレスポは、イベントをお手伝いしているイベント制作会社です。

全国に拠点を持ち、セレモニー・スポーツ・プロモーション・フェスティバル・コンベンションを
5つの柱に企画・演出から当日の設営・運営に至るまで、トータルでプロデュースしています。

私たちは、感動・希望・思いやりなどをイベントでつなげる皆さまにお届けします。

Contents

セレスポの価値創造

セレスポの使命	01
セレスポの幸福	02
トップメッセージ	03
価値創造プロセス	05

セレスポの成長戦略

2030年ビジョン／中期経営計画	06
特集：お客さまとともに課題解決に挑む社員の声	07
TOPICS	11

事業概況

部門別の概況	12
財務・非財務ハイライト	13

価値創造を支える基盤

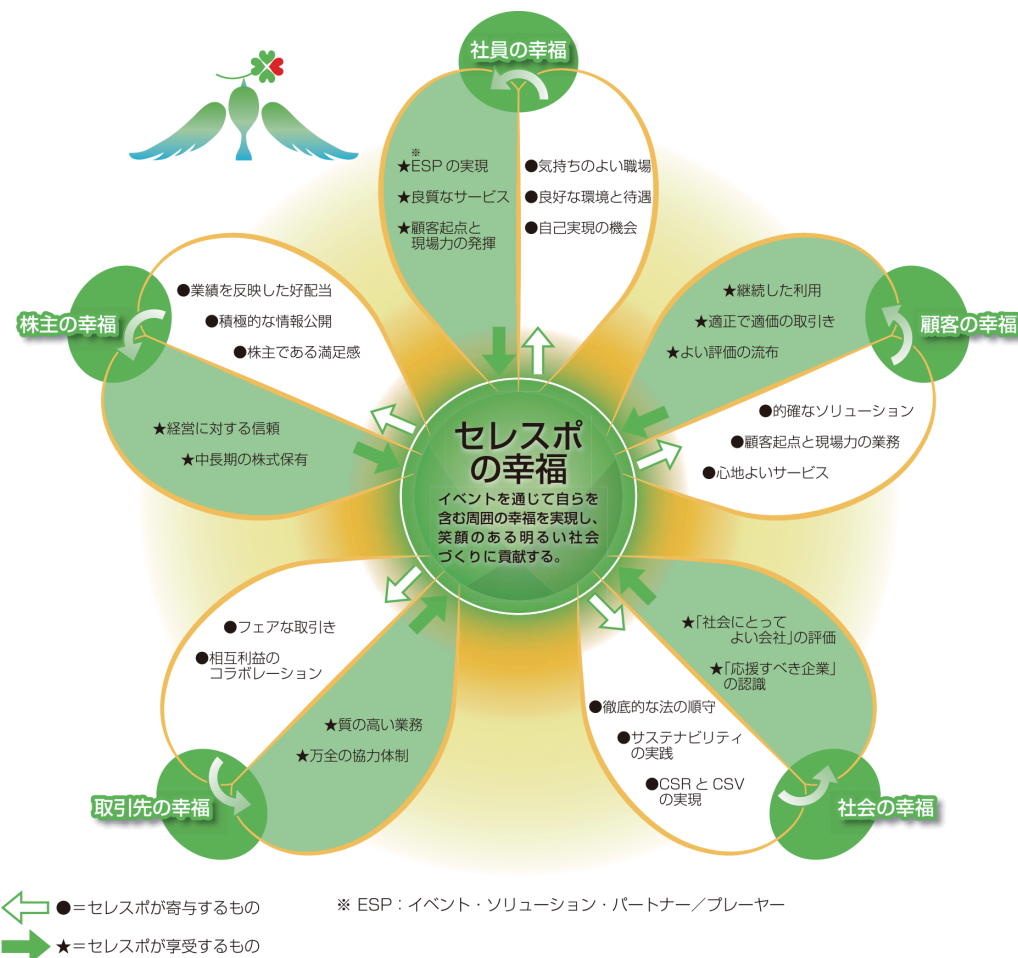
サステナブル経営の推進	14
サステナビリティ推進体制	14
サステナビリティへの取り組み	15
環境／社会	16
ガバナンス	19
役員紹介	20
社外監査役メッセージ	22

アウトライン

会社情報／株式情報	23
-----------	----

CORPORATE PHILOSOPHY

経営理念



イベントを通じて 自らを含む 周囲の幸福を実現し、 笑顔のある明るい 社会づくりに 貢献する。

私たちは「イベントを通じて自らを含む周囲の幸福を実現し、笑顔のある明るい社会づくりに貢献する。」という経営理念の実践に努めています。

その際に重きを置くのが、周囲のステークホルダーへの貢献です。ステークホルダーとして、社会、株主、顧客、取引先、社員を意識しました。社員が楽しんで働くことがよい仕事につながり、それが周囲の幸福を実現し、その状況が自分たちの新たな幸せとして返ってくる。そんな「幸福の連鎖」を生み出すよう努力してまいります。





TOP MESSAGE

積み重ねてきた「信頼」を再構築し、
セレスポは「リバイバル（復活）」を
果たします。

代表取締役社長 田代 剛

る「現場力」と「企画力」に磨きをかけてきました。その日々の中で、我々の役割が「イベントを通じて社会課題を解決する」ことだと再認識し、いただいた仕事と真摯に向き合うことで自分たちの新たな可能性に気づくこともできました。

もちろん、次に向けた案件獲得のための活動も積極的に進めてきました。その結果、全ての官公庁で指名停止措置が解除された今は、イベント繁忙期とされる今秋をはじめ、それ以降の受注を多数獲得することができ、「復活」に向けた強い手応えを感じています。

2025年3月期は、当社にとって新たなスタートラインです。お客さまの期待に応えられるよう全社一丸となり、貯えてきた力を存分に発揮しながら一つひとつの仕事に邁進してまいります。

社会からの「信頼」回復へ、 着実に歩を進めていきます。

2025年3月期は、中期経営計画V（2023年3月期～2025年3月期）の最終年度です。基本方針として掲げている「向上心の発揮」「現場対応力の向上」「発信力の強化」を引き続き推進しながら、まずは大型案件の受注を目指します。そして、社員が活躍できる場を設けることで自信を取り戻し、業界内のポジションと社会からの「信頼」を再構築していきます。

既に、スポーツ事業においては、5月に東アジアで初めて開催された世界最高峰のパラ陸上競技大会「KOBÉ2024 世界パラ陸上競技選手権大会」の運営に携わり、同大会の基本理念である、「障がい者と健常者が一緒になって、東京2020パラリンピックにおける感動やパラスポーツへの関心の高まりを次代に“つなげる”、スポーツを通じた交流の輪を“ひろげる”、障がい者のみならず誰もが暮らしやすいまちづくりを“すすめる”」ことに貢献することができました。

お客さまの期待に応えるべく、 再出発の準備を整えてきました。

東京オリンピック・パラリンピックの入札に関する独占禁止法違反容疑において、皆様に多大なるご心配とご迷惑をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

2023年は、新型コロナウイルス感染症が5類に分類されたことでイベント開催に関する制限もなくなり、コロナ

禍前とほぼ同じ条件でさまざまなイベントが再開された一年でした。しかしながら、当社は、全国500の官公庁から指名停止措置を受けていたことから案件数が激減し、盛り上がるイベントを目の当たりにしながら、社員はそこで力を出し切れない悔しさやもどかしさを強く感じていたように思います。

そのような環境下でも、当社の再スタートを待ち望んでくださるお客さまの存在があり、社員たちは明るく前向きにスキルアップ研修に参加するなどして、我々の強みであ

競争事業においても、目標である「4大行幸啓行事のグランドスラムへの挑戦」が達成に近づきつつあります。これは、天皇陛下がご臨席される年間4つのイベント全ての運営に携わることを目指したもので、2025年3月期は3つのイベントに関われることが決定しています。引き続き、目標達成に向けて挑戦を続けてまいります。

次世代の価値創造を担う 人材育成を進めます。

2025年3月期は重要かつ大型のイベントに関わる中で、社員のモチベーションもこれまで以上に高まり、成長のスピードが加速しているように感じます。この状況に満足することなく、中期経営計画Vの施策の一つである「価値創造を担う人材の育成」を引き続き進めてまいります。

当社では、2024年3月期に「新規事業の創出」をテーマとした人材育成プログラムを行いました。この人材育成プログラムは、さまざまな部門で活躍する若手社員が10年後、20年後に当社をどのような会社になりたいのか、どういった事業に取り組みたいのかを自ら考え、それに向かって行動していくための取り組みです。プログラムの最終段階に行ったプレゼンでは未来につながる新規事業へのアイデアが多数発表されました。

2025年3月期のテーマは「自走人材の育成」です。指示を待つのではなく、自らの意思で考え能動的に業務を遂行できる人材を育成するために、例えば、イベント運営に関わる人数を増やしたり、他の部署からも参加できるようにしたりするなど、さまざまな垣根を超えた経験の場を提供するとともに、イベントでの体験やあらゆる情報をデータベース化し、経験の少ない若手社員にとっても円滑に企画・運営できる仕組みを整えました。このような次世代を担う社員の成長を促す施策は、今後も積極的に進めてまいります。

イベントを通して社会課題を解決に導く、 それがセレスポの使命です。

人口減少や少子高齢化、都市への人口集中、地方衰退と、日本は多くの社会課題を抱えています。日本各地で開催されるイベントには、そんな社会課題の解決を目的にしているものも多く、例えば、自治体が主催する親子を対象としたスポーツイベントの多くは、子育てしやすい街づくりなどをアピールポイントにしています。

我々は、抱えている課題もそれぞれ、文化や歴史、引き出せる魅力もそれぞれの地域や団体、企業等により良い提案をし、より良いイベント運営のできる人材を育て、課題と一緒に解決していかなくてはなりません。

また、日本は災害大国であるにも関わらず、防災や災害発生時の初動対応に遅れが目立つこともしばしばあります。2024年1月1日に起きた能登半島地震においては、数カ月トイレが使えないといった事態も発生していました。我々が生業としている「イベント」には、短期間ではあるものの多くの人がひとつの場所に集まり快適に過ごす、いわば街づくりのノウハウが凝縮されています。そう考えると、我々が持つそのノウハウが災害時のお役に立てるのではないかと、そんな思いを持っていました。実際に、能登半島地震の復興に関してアドバイスを求められたことで、その思いは今、確信に変わりつつあります。

さらには、世の中の多様性への理解が進む中、「誰もが楽しめるイベントづくり」も我々の使命です。振り返れば、セレスポがバリアフリーライフ研究所（現イベントサステナビリティ推進チーム）を立ち上げたのは1999年のことでした。それから四半世紀にわたり、この分野における先駆者として企画段階から障がいの有無、性別、年齢、国籍などに関係なく誰もが安心して楽しめるイベント環境の創出に向けて取り組んできました。2024年6月にはイベントにおけるLGBTQ+ハンドブックを作成するなど、蓄積されたノウハウを全社員で共有しています。

全てのステークホルダーに 夢と希望を与えられる企業を目指します。

私は、社長に就任以来、事あるごとに「現場」でも活動する経営者であり続けることを社員たちに宣言してきました。向上心ある社員一人ひとりの新たな挑戦と成長を「現場」で支え、初のプロパー社長として「自分も社長になれるかもしれない」という夢と希望を与え続けていきたいと思っています。

また、株主さまをはじめ全てのステークホルダーの皆さまにも、当社の持続的成長という希望をお持ちいただけるよう、まずはPBR1倍への改善を目指し、経営を行ってまいります。どうぞセレスポの「リバイバル（復活）」をご期待ください。



VALUE CREATION PROCESS

価値創造プロセス

直接体験の場であるイベントは、多くの関心を集めるとともに、情報発信の起点にもなります。

このため、時代の求める変化に適応し、社会の期待や課題に応じていくことがイベント制作においても重要だと考えています。

セレスポは、「イベント・ソリューション・パートナー」として、経済的・社会的価値の創出に努めることで、持続可能な成長を目指してまいります。

価値創造の源泉



人的資本

- 社員 388名
- 専門ディレクター 25名（イベント業務管理士1級）
- 多様な人材の活躍推進
女性管理職比率
8.4% → 13.9%
2017/3 2024/3



組織資本

- 全国対応可能なネットワーク
（営業拠点数 27拠点）



社会・関係資本

- 顧客数 1,900社超（1,974社）
（10年以上継続顧客数 393社）
- 協力会社 534社



知的資本

- ISO20121認証取得



自然資本

- グリーンエネルギーの活用
（活用比率 46.4%）



財務資本

- 自己資本比率 82.5%

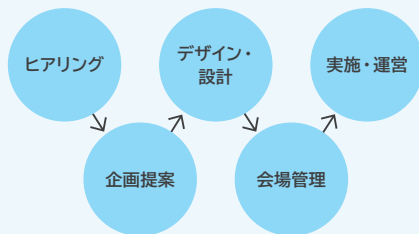
事業活動

経営理念

イベントを通じて自らを含む周囲の幸福を実現し、
笑顔のある明るい社会づくりに貢献する。

ビジネスモデル

イベントの企画から運営までワンストップでサポート



エシカルアプローチ

ISO20121に
基づく
事業活動

エコ資材の
活用

ユニバーサル
イベントの推進

アウトプット

展開領域



セレモニー



スポーツ



フェスティバル



プロモーション



コンベンション

生み出される価値

社会的価値



環境への負荷低減



インクルーシブな
社会づくり



地方創生・
まちづくりの推進



従業員の
働きがいの向上

経済的価値

2025年3月期 目標値

売上高 **135.0** 億円

営業利益 **6.7** 億円

売上高営業利益率 **4.9** %

1株当たり
当期純利益 **84.35** 円

貢献する主なSDGs

環境保護



社会進歩・経済成長



ガバナンス向上



P.15

サステナブル経営の推進

環境 P.16

社会 P.16~

ガバナンス P.19

価値創造を支える基盤

価値創造の循環による持続的成長

MEDIUM-TERM MANAGEMENT PLAN

2030年ビジョン／
中期経営計画

中期経営計画Ⅳにおいては、最大収益を確保して継続企業としての実現に大きな成果をあげることができました。

この取り組みを継続しつつ、10年先に目指す姿を新たにしていってチャレンジしていくために中期経営計画Ⅴを策定しました。

2018
中期経営計画Ⅳ

2022
中期経営計画Ⅴ

2025
中期経営計画Ⅵ

2028
中期経営計画Ⅶ

2030
年ビジョン

社会変化に適応し続けられる経営環境を実現

中期経営計画Ⅴ 基本方針

向上心の
発揮

現場対応力の
向上

発信力の
強化

サステナブル経営の推進

社会課題への対応、ステークホルダーのニーズへの対応

事業成長

市場の拡大

新たな収益源の確保

市場ニーズへの対応

地方創生、SDGs、DX、事業予算調達、イミ消費※

大型案件の受注

スポーツ事業、競争事業、2025大阪・関西万博、2026アジア競技大会

業務のデジタルシフト

事業環境のオンライン化、業務プロセスのデジタル化

組織力強化

戦略遂行可能な
組織・業務の確立

情報共有 連携強化

価値創造を担う
人材の育成

※ イミ消費：商品・サービスそのものの機能だけではなく、それらに付帯する社会的・文化的な価値に共感して選択する消費行動

中期経営計画Ⅴの詳細については、当社Webサイト「IR情報」にてご覧いただけます。

<https://www.cerespo.co.jp/ir/management-information/plan.php>



01 競争優位性の追求

ポストコロナ、ポストDX時代のいかなる状況においても、顧客ニーズを先回りすることで、競争優位性を保ち続ける。

02 社会課題の解決

社会課題を起点としたサステナブル経営の実践により、事業そのものが社会課題の解決策となる。

03 業界の発展に影響を持つ

イベント業界の変化を成長機会として活用し、自らの社会的価値を高めながら、魅力ある業界として社会に発信していく。

SPECIAL FEATURE

施工センター
制作課
玉置 貴彬



さいたま支店
営業課 課長
松尾 美保



スポーツ事業推進室
内山 賢一



「現場力」でつかんだ信頼を形に。 お客さまとともに社会課題解決に挑みます。

まずはセレスポに入社した理由と、 いま携わっている仕事を教えてください。

松尾 大学を卒業してから、保険や自動車メーカー、人材派遣、印刷・出版など、いくつかの会社で事務職として働いてきました。事務という仕事もとても大切な仕事ですが、自分が本当にやりたい仕事を考えていく中で、たまたまPR会社に勤務していた時に携わったイベントでお客さまと接する楽しさを知り、転職を決意しました。セレスポ

というイベント会社があることを知ったのは、その時です。入社して17年。未だに大変なことも多いですが、回を重ねるごとに親くなる自治体や地元の商店の方々、参加して下さった多くの人たちの笑顔を見ると「次もやりたい」と感じます。これだけ長く続けられていられるのは、イベントが自分のアイデアを形にできる仕事であり、大好きな地域に貢献できる仕事だからです。今は、さいたま支店で自治体を中心とした営業を担当する傍ら、チームのマネジメントも行うようになりました。

内山 私は、日本スポーツ協会を中心に営業や制作を担当しています。1989年入社ですから、もう35年もこの仕事を続けてきました。実は、もともとイベントに興味があったわけではなく、当時の就活が人材・求人情報誌についているハガキを送るというスタイルで、その雑誌の最初についていたハガキがセレスポだったという、ただそれだけの理由で応募しましたが、面接で事業内容も知らない私を面接官だった役員が熱心に誘ってくれました。最終的にはそれが入社するきっかけだったように思います。

入社してからは本当に色々なことにチャレンジしました。

末期とはいえまだバブル期でしたから、イベントや式典の数も多く、会場設営から運営、営業などほぼ全ての業務をこなしてきました。これだけ長く続けてこられたのは、常に新しいことにチャレンジさせてもらったから。たとえ経験がなくても、頼られればその仕事を受けて、知恵を働かせてより良いイベントを作り上げる——これは今も変わらないセレスポの文化ですね。

玉置 私は2023年に入社してようやく一年が経ったところです。学生時代にサッカーをしていたことからスポーツイベントに興味があったのですが、色々調べていく中で、セレスポがスポーツイベントに強いイベント会社だと知り、応募しました。また、中学生の時に父の仕事の関係で海外に住んでいたことがあり、そこで身につけた語学力も活かせるのではないかとという考えもありました。

今は、施工センターに所属し、関東近県の会場の設営を行っています。関係者含め、安全にイベントが行われるために自分にできることを常に考えながら、時間通りに会

場を設営し、時間内に撤収する。現場ごとに違う雰囲気ややり方を学んでいる最中です。

これまで手掛けてきたイベントで、特に印象深かったものは？

玉置 経験はそれほど多くありませんが、2023年10月に鹿児島県で行われた国民体育大会で少年サッカーの一会場の責任者を担当したことです。この国民体育大会は、毎年、都道府県持ち回りで開催される国内最大のスポーツの祭典で、競技者も観戦者も多いとても大きな大会です。責任者の仕事は、会場に関わるさまざまな調整から始まり、現地に入ると今度は実行委員の方と直接話しながらレイアウトを変更したりなど対応力が求められます。また、競技が始まってからは観戦者がいる中で興行のことも考えなければならず、表側と裏側を両立させることがこんなに難しいのかと痛感させられました。開催日程も長く、二週間ほどの期間でアルバイトや協力会社の方々を入れると20人から30人くらいになるスタッフを管理しながら、的確な指示を出すなど、全体を見渡す広い視野も必要だと気づきました。

それでも大きな問題なく無事に終えることができたこと、また、大会の運営を体感できたことは最大の収穫でした。これまではプレーする側としてのサッカー競技でしたが、初めて運営する側として携わる中、選手や観客の方々の喜んでくださる表情は格別でした。

松尾 イベントの運営と一口に言っても、たとえば仮設トイレの設置からテーブルクロスのレンタルといったものまで、ありとあらゆるものを手配するのが私たちの仕事ですので、大小に関わらず本当に日々色々な仕事があります。



その中でも一番記憶に残っているのは、2016年に埼玉県日高市で行われた「高麗郡建都1300年記念祭」です。

このイベントは、東アジアの強国だった高句麗から渡来した王族などによって、日高市や飯能市のあたりに「高麗郡」が建郡されてから1300年を迎えた2016年5月に、自治体・市民をあげて記念の祝祭が2日間にわたって執り行われました。式典やパレードなどの記念行事が目白押しの2日間で、2年ほど前からご相談いただき、準備を進めてきました。中でもパレードは例年の規模とは桁違いで、地元の保育園、幼稚園の園児、近隣の市、町にも協力いただくなど、本当に多くの方がご参加くださりました。

私はそのパレードの担当者でしたが、規模的にも予算的にもこれほど大きなイベントを担当するのは初めての経験で、そのプレッシャーから本番の2週間くらい前には逃げ出したい気分にもなりました。何か忘れていることがあるのではないかと、当日、突発的な何かが起こるのではないかと。でも、当日のパレードの最終地点で、参



加者にサプライズで用意した巨大クラッカーから飛び出した紙テープを浴びた皆さんのはじける笑顔を見た時、本気でまたやりたいと思いました。イベントは毎回この繰り返しです。

そうそう、玉置さんとチームでやった仕事も大変でした（笑）！会場設営の機材を乗せた10トントラック4台が到着して、すぐにでも設営作業を始めなくちゃいけないのに、手配したはずの荷物を降ろすためのフォークリフトが来ない。荷物の量が多すぎて、人だけでできるような作業ではありません。慌ててフォークリフトを再手配しようとしたのですが、すぐに対応してくれる協力会社さんは見つかりません。これでは、多方面の方々に迷惑をかけてしまうことになる、本当に焦りました。

玉置 それで結局、そこにいた人全員で、手で降ろし始めましたよね（笑）。

内山 あるある、そういうこと。でも、そういう時はやっぱり人の手で降ろし始めるしかないんだよね。後からそこにフォークリフトが合流すれば時間は取り返せるから。身体を動かしながら、知恵も精一杯働かす、これが、我々の命綱である「現場力」であり、経験する中で少しずつ改善点を探りながら、ここまでやってきました。

特に印象に残っているイベントは何かと問われると、たくさんありすぎて絞り切れないですね（笑）。本当に多くのイベントに携わり、初めて直面する出来事もたくさんありましたけど、セレスポには企画から会場設営、運営までをワンストップでできるプロがいましたし、ノウハウも揃っていましたから、そのたびに乗り越えながら、経験と信頼を積み重ねてくることができました。

セレスポとしては、2025年3月期を「リバイバル」の年と位置付けています。どう感じていますか。

内山 これまで我々が築き上げてきた信頼は簡単に失われるようなものではなく、実際、今もやるべき仕事が目の前に山積しています。セレスポの強みは、先ほどのお話のように、フォークリフトが来ないなら自力で降ろしてでも必ずやり遂げるといった強い気持ちを持った会社だということです。他に同じことができる会社があるのかと尋ねられたら、私は迷わず「ない」と答えます。



さらに、セレスポには「ライバルをも巻き込んで、一緒に作り上げる」という懐の深さもあります。もちろん、自分たちだけで新しいモノを作り上げるのが難しいときもありますが、そんな時は、自分たちに足りないものを持っている人たちと協力して作ればいいんです。変な縄張り意識、ライバル意識で戦ってしまうより、一緒にやっていたいモノを作り、お互いの経験になればそれでいいと思

うんです。逆に、セレスポの力が必要な時は、必ず協力を求めてくれますから。

松尾 そうですね。イベント業界全体が危機的な状況となった新型コロナウイルス感染拡大時でも、セレスポはネットワークやリソースを活用して、北海道から九州まで幅広い地域で接種会場の設営のみならず、運営までをサポートしてきました。コロナで失ったものを、コロナで取り返した会社であり、これができるイベント会社とできなかったイベント会社では、天と地ほどの差が生まれたと思います。それは、危機発生時の対応力やノウハウを得たという面でも、自治体との信頼関係を築いたという面でもです。お客さまとは今も信頼で結ばれていることを感じていますし、私たちはようやく羽を広げて、堂々と仕事ができることをとても喜んでいます。

玉置 私は、ちょうど指名停止の時期に入社したのですが、そんな時期でも、先輩たちは皆「前向きさ」を持っていて、行く現場ごとに多くの学びがありました。例えば、会場の設営もレイアウト通りに作り上げるのではなく、安全であることを前提としながら、資材の置き方もお客さまからどう見えているのかを確認し、工夫して置くようになりました。

松尾さんの現場に関わった時は、子ども連れのお客さまに対する気配りやより楽しんでいただくためにはどうすればいいかをスタッフみんなが考えていて、私自身も多くのことに気づかされました。このように、良いモノ作るために妥協しない姿勢をお客さまも目にして、評価してくださっているのでしょうか。私もチームの一員としてその信頼をつなげていく仕事したいと思っています。

これから、仕事を通じてどのような夢を叶えていきたいですか。

内山 長く、日本全国を飛び回りながらさまざまな場所でさまざまな仕事をしてきましたが、47都道府県のうち、鳥取県でだけ仕事できていません。ここまで来たら、仕事で全国制覇を目指します（笑）。

そして、次世代のセレスポに引き継げることを少しずつ考えていく時期にきたことも感じています。これまでにオリンピック関連の仕事を始め、本当にさまざまな分野のイベントを担当してきました。イベントは色々な役割の人たちが集まり、才能を出し合ってつくり上げます。特に若い社員には、自分がやりたいと思うことや興味を持っていることがあるなら、声に出して言い続けてほしいと思います。声に出していればこそ、誰かの記憶に残り、何かの場面で思い出して、不意に実現することもあるはずですよ。

そして、常に色々なものに興味を持ち、アンテナを張り続けてほしいと思います。それがお客さまとのコミュニケーションを深め、より強い関係を築き、良いイベントをつくるための屋台骨となってくれます。私もまだまだ最新の音楽を聴いたりしますし、色々なものに興味を持ち続けますよ（笑）。

玉置 私はとりあえず自分のできる業務の幅がまだ狭いので、そこを広げるためにどんな業務でもやってみたいです。会場設営よりも前段階の企画もやりたいことのひとつです。もともとスポーツイベントに興味がありましたが、色々なイベントに関わる中で、式典やお祭りなどにも魅力を感じるようになり、まずは、自分のやりたいことを整理しながら、ひとつでも多く経験を積みたいと思います。

正直、自分の得意分野が何なのか、やりたいことが何か

もはっきりわかっていませんから、得意分野を伸ばすというより、不得意をなくすところから始めていきたいです。

松尾 私は、女性管理職の比率を上げたいと思っています。イベントは拘束時間が長かったり、週末が仕事になるなど勤務日程が不規則なこともあって、仕事に100%向き合えないもどかしさがあったり、サポート役に回ったりすることが増え、退職を選ぶケースもまだまだあります。とても残念なことですよね。

それを変えるために私にできることは、「頑張ればできる」という姿勢を見せるのではなく、「ゆるく」働いている私でも成果をあげられて、それがちゃんと評価され、キャリアを目指せるという実績を作ることだと思うんです。

私がこれまで子育てをしながら、やりたい仕事を続けてこられたのは、それぞれの経験と視点から、私の仕事を支え、ミスを未然に防ぐためにフォローしてくれる社員

みんなのおかげです。誰よりも残業時間や労働時間が短いかもしれない私が、未来を切り開いていければ、子育てもやりたい仕事も諦めずに済む女性社員が増えるかもしれません。だって、私が必死になって働いて、それでもマネージャー以上になれなかったら、キャリアを積みたいと思っている女性社員も未来に期待できなくなっちゃうでしょう？だから、やる時はやる、任せる時は任せるというメリハリある姿勢で新しい道を作ります。これが、私にできる先輩や会社への感謝と貢献ですから。

迷っている女性社員に言えるとしたら、家族はこうあるべきとか、仕事をしていると子供がかわいそうとか、自分で勝手に作ったルールが自分自身の壁になってしまうことも多いということ。でも、そのルールを変えれば、違う景色が見えてくることもあります。これは、私が育休から仕事に復帰した時、女性の先輩社員が気づかせてくれたことです。その先輩の想いも引き継いでいきたいですね。



INNOVATIONS in GATHERING STYLES

新しいイベントのかたち 集まり方改革の推進

ステークホルダーと考える新しい集まり方は、私たちが取り組むべきテーマであり、これからのイベントのあり方を考えていく上で、重要なことばかりです。「集まり方改革」は、ステークホルダーとのタッチポイントとして、さらなる“ことづくり”の場となるプラットフォームです。

サステナブルイベント

イベントだからこそ意識が必要

サステナブルなイベントであることは、既に世の中の常識だと私たちは考えています。イベントだからハメを外すといった考えは、現代社会では認められず、イベントだからこそ厳しい目で見られるという意識で私たちは取り組んでいます。イベントの主催者ごとに、何に重きを置くかはそれぞれですが、造作物の大量廃棄や食品ロスの抑制やDE&Iなどが常識的に求められる時代になっています。イベントそのものが持続可能な文化であり続けるために、イベント制作会社である私たちと全てのステークホルダーが、共に考えイベントを実施していくためのプラットフォームとして、本ページは立ち上げられました。ウェルビーイングな社会を作るためのイベントであり続けるために、多くの皆さまとの接点を作り出したいと考えています。

チームビルディング

仲間意識は社会の基盤

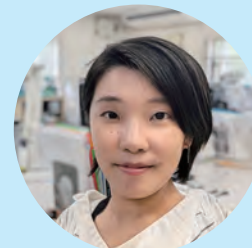
私たちは長い間、創業当初から運動会に携わり、数多くの企業やコミュニティの方々のお手伝いをしてまいりました。コロナ禍を通じてオンライン越しに会議をする機会も増えて、人と人とのつながりが希薄化されたこともあり、私たちは運動会以外のコンテンツを活用したチームビルディングに取り組んでいます。「結局リアルが一番」という声もありますが、集まり方の変化によりオンラインも交えたハイブリッド型のイベントも当たり前になりました。手段はどれあれお互いを知り合うことで、組織が目標に向かう推進力になることが再認識されたので、従来の“運動会ドットコム”は集まり方改革として生まれ変わり、時代に合わせた“場づくり”に取り組めます。

イベントDX

無意識なDX

DXというと非常に大袈裟ですが、イベントに便利なサービスは、コロナ禍を通じて数多く提供されるようになりました。非接触受付は常識になり、メール配信もセキュアな管理コンソールで簡単且つ安全に行えるようになったほか、LINEを入り口にさまざまなサービスとつながることも可能になりました。しかし、WEBを介して提供されるクラウドサービスを、苦手とする方も多くいらっしゃるため、“イベントDX”と題して顧客接点の強化を図っています。イベントを安全・安心・スムーズに開催していただく手段として、私たちは多くのイベントに適合するサービスを取り扱っております。イベント制作で培ったノウハウを生かし、安心で安全なイベントづくりに取り組みます。

Interview



西東京支店
末永 優子

お客さまとイベントの目的を再確認

お客さまと話している中で、年々イベントに求められるベースが高くなっていると感じることが2つあります。1つは何のためにイベントを開催するのかを明確にしていくことで、もう1つはイベントにおける配慮事項が増えていることです。特に後者で顕著なのはサステナビリティとDXです。

どちらもビジネス全般で言われているような大きな意味で捉えるのではなく、イベントの規模感に合わせるのがよいと考えています。例えば、参加者はデジタル環境に慣れてきていますし、お客さまも業務を効率化したいと考えています。そうであれば、受付や情報発信など基本的なことからデジタル活用を進めていくことは自然なことだと思います。

現在のサイトはセレスポ視点での情報提供が中心になっています。お客さまと一緒にイベントを考えていくために活用していくのであれば、主催者がイベントに対してどのようなことを考えているのか、その考えを形にするためにどのようなプロセスをたどっているのかを紹介してもらえるといいと思います。

サステナブルイベントで 社会課題に取り組む

<https://www.atsumarikata-kaikaku.com/sustainable/>



あなたのチームを強くする イベントで取り組むチームビルディング

<https://www.atsumarikata-kaikaku.com/teambuilding/>



DXツールでイベント 開催をサポート

<https://www.atsumarikata-kaikaku.com/event-dx/>

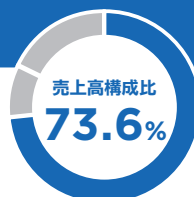


SEGMENT INFORMATION

部門別の概況

基本事業部門

各営業拠点が担当する、
さまざまなイベント領域

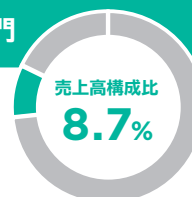


主なイベント

建設式典、記念式典、地域振興イベント、文化イベント、
プロモーションイベントなど

スポーツ事業部門

中央競技団体・リーグ等が
開催するスポーツに関する
イベント領域

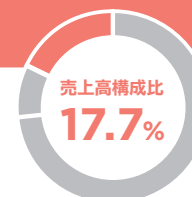


主なイベント

日本陸上選手権、トライアスロン大会、Vリーグ、
ハンドボールリーグ、プロゴルフ選手権など

競争事業部門

皇室ご臨席行事を中心とした
全国持ち回りで開催される
イベント領域



主なイベント

国民体育大会、全国高校総体、植樹祭、育樹祭など

当期の業績

新型コロナウイルス感染症の対応案件の減少と、東京オリンピック・パラリンピックに関する独占禁止法違反容疑における官公庁からの指名停止措置等の影響により、案件数と案件単価が減少し、売上高は6,596百万円と前年同期比57.2%の減収となりました。

当期の業績

前年の実績と比較して、案件数は増加したものの案件単価の減少により、売上高は774百万円と前年同期比7.7%の減収となりました。

当期の業績

前年の実績と比較して、大型案件数の減少が影響し、売上高は1,587百万円と前年同期比56.8%の減収となりました。

今後に向けた成長戦略

- 現場対応力の向上によって顧客の最初の相談相手になることを目指し、顧客浸透度を向上
- 時代の潮流と顧客のニーズを捉えて業務領域の拡張を目指し、ビジネスの成立と同時に社会課題を解決

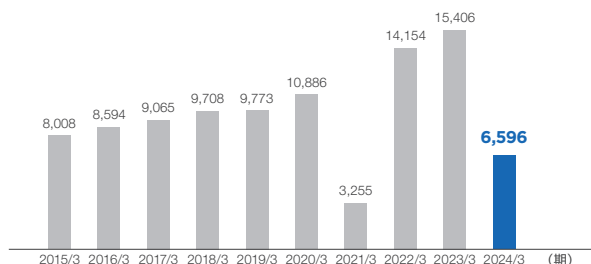
今後に向けた成長戦略

- 中長期的なスポーツビジネスの拡大を目指し、国際的スポーツイベントへの参画
- 地方創生事業を成長領域として設定し、地域の活性化に貢献する事業の提案

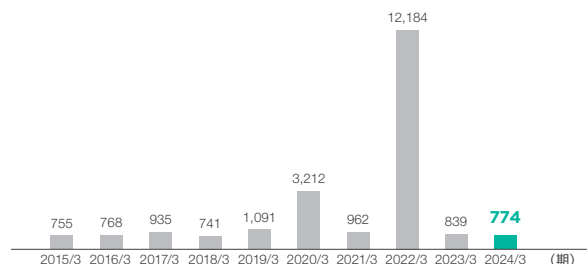
今後に向けた成長戦略

- 顧客起点の発想に基づいたイベント制作能力のさらなる強化
- コンサルティング力のさらなる強化を図り、継続的な皇室ご臨席行事への参画

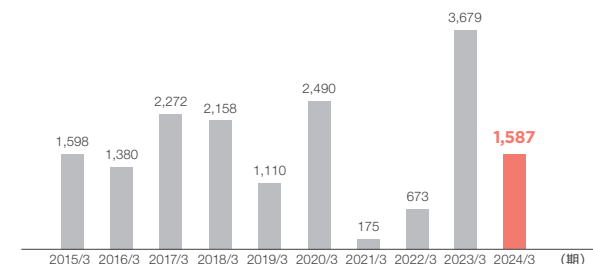
売上高の推移(百万円)



売上高の推移(百万円)



売上高の推移(百万円)

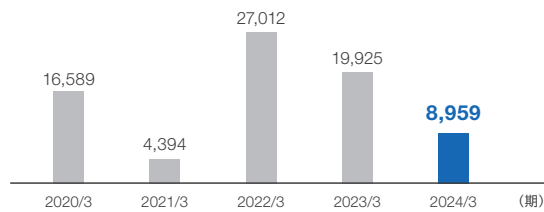


FINANCIAL and NON-FINANCIAL HIGHLIGHTS

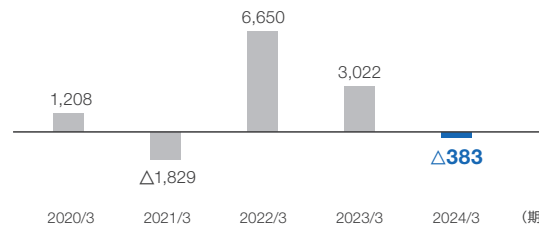
財務・非財務ハイライト

財務指標

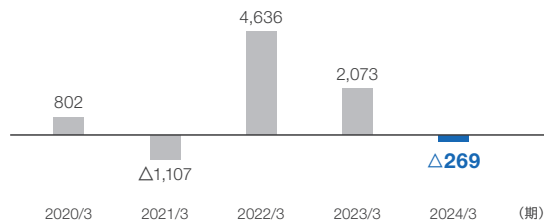
売上高 (百万円)



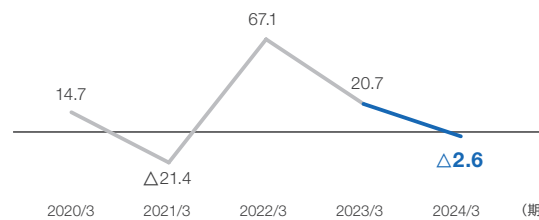
営業利益 (百万円)



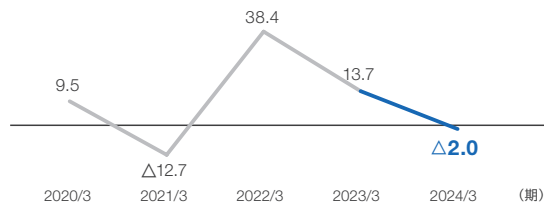
当期純利益 (百万円)



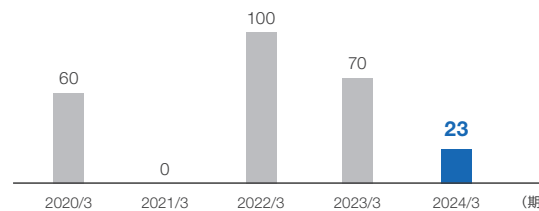
自己資本当期純利益率 (%)



総資本経常利益率 (%)

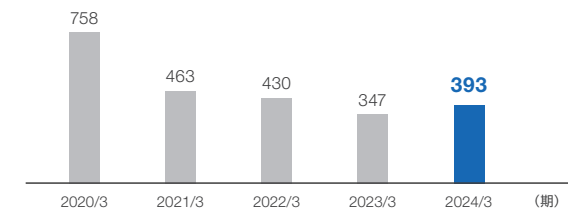


1株当たり配当金 (円)

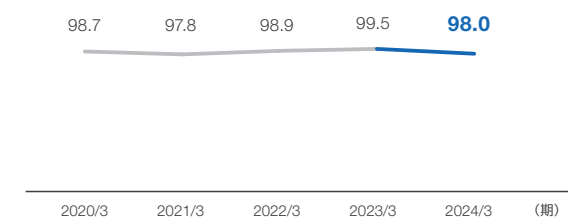


非財務指標

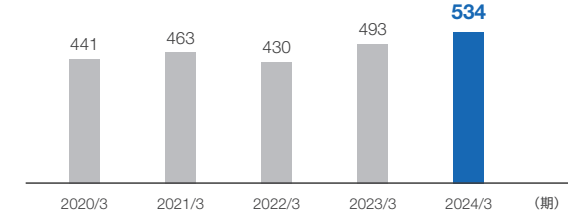
10年以上継続顧客数 (社)



顧客満足度 (%)



協力会社数 (社)



さらに詳しい財務・非財務データについてはファクトブックにてご覧いただけます。

https://www.cerespo.co.jp/ir/pdf/h_240725.pdf

SUSTAINABILITY PROMOTION SYSTEM

サステナビリティ推進体制

セレスポは、経営理念「セレスポの幸福」に基づき「サステナビリティ方針」を制定するとともに、イベントにおける持続可能性に関するマネジメントシステム「ISO20121」を活用し、組織運営や事業活動に取り組んでいます。

ISO20121とは 2012年6月に発行された国際標準規格。イベント分野においてサステナビリティに取り組んでいくため、環境、社会、経済の側面から影響を管理していくためのマネジメントシステム。セレスポは2016年11月に日本で初めて組織全体を対象にした認証を取得。

社内に向けた取り組み

ISO20121推進

社内から選任されたISO20121推進担当者を中心にサステナビリティ推進を行っています。全社への情報発信、産業廃棄物中間処理施設やサステナブルなイベント資材を扱う企業への訪問、実際にイベントで行われている取り組みなどを視察しました。また、ISO20121推進事務局としてリスクに対する課題の評価を行いました。その他、サステナビリティに関する社員アンケートやセミナーを実施、社員の理解浸透を図っています。



減量化・再資源化率98%を達成する石坂産業(株)工場の様子

社外に向けた取り組み

フードドライブ実施

一般社団法人 日本ハンドボールリーグ主催試合におけるフードドライブに協力。開催前にWebサイトを通じて来場者に協力を呼びかけました。

また、関係者やセレスポ社員も活動に参加し、集まった食料はフードバンクへ寄付されました。

サステナブル・ブランド国際会議への協力

株式会社社博展と共同で、サステナブル・ブランド国際会議2024 東京・丸の内にて、特別プログラム「Sustainable Event Professional Forum 2024」を開催しました。

その他、第4回 SB Student Ambassador北海道ブロック大会、九州ブロック大会に協力。参加した高校生に「イベントとSDGs」をテーマにした講演とワークショップを行いました。

NPOとの連携

● 認定NPO法人D-SHiPS32

パラスポーツの発展や浸透、共生社会の実現に向け、認定NPO法人D-SHiPS32と「パラ大学祭」を開催。パラスポーツを通じた大学を超えた学生同士の交流機会となりました。また、D&Iやパラスポーツを取り巻く課題に目を向けてもらう機会となりました。

● NPOユニバーサルイベント協会

障がいの有無、年齢、性別の異なるさまざまな参加者による対話会「ユニバーサル・サロン」をNPOユニバーサルイベント協会と開催。テーマは「思い出に残っているイベント」。聴覚に障がいのある参加者とは筆談や音声翻訳アプリも活用するなど、参加者同士が工夫を凝らしながらコミュニケーションを図りました。

Positive Impact Events 日本事務局

イベント分野のサステナビリティ教育を行うイギリスの団体Positive Impact Events(本部：マンチェスター)と連携し、イベントサステナビリティに関する海外事例や情報の国内への発信、啓蒙などを行っています。



パラ大学祭

SUSTAINABILITY INITIATIVES

サステナビリティへの取り組み

ISO20121推進事務局が主体となりステークホルダーに与える影響を考慮し、ESMS（Event Sustainability Management System）課題の絞り込みを行いました。

課題解決に向け「廃棄物の抑制」「ユニバーサルイベントの実践と普及」「地域課題の発見と解決に向けた地域社会や自治体との連携」

「ワークライフバランス、健康経営の推進」「コーポレートガバナンスの強化」を重点施策として取り組みを進めています。

ESG	ESMS課題	ISO20121推進事務局が設定した重点施策	主な取り組み	関連するSDGs
環境	● 廃棄物管理	廃棄物の抑制	ブルーシートの水平リサイクル（循環型資材の導入）	   
			産業廃棄物排出量測定・管理	
			廃棄物をテーマとした社内セミナー、視察	
社会	● ダイバーシティ&インクルージョン ● 人権尊重	ユニバーサルイベントの実践と普及	NPOと連携したイベントの開催	   
			ユニバーサルイベント推進に寄与する検定の推奨	
	● 地域貢献 ● 教育および文化 ● コミュニティへの参画	地域課題の発見と解決に向けた地域社会や自治体との連携	スポーツイベントにおけるフードドライブ実施	  
			サステナビリティをテーマとした高校生向けプログラムへの協力	
			陸上クリニックの開催	
			自治体SDGsプラットフォームへの参加	
	● 労働安全衛生 ● 健康・ウェルネス	ワークライフバランス、健康経営の推進	スーパーフレックス活用	 
			リモートワーク活用	
			健康診断受診促進	
ガバナンス	● コンプライアンス ● 情報の適切な処理	コーポレートガバナンスの強化	産業廃棄物管理票（マニフェスト）の適正運用	
			イベント制作に伴う関連法令の社内周知	
			サプライヤーに対する安全・品質向上推進大会の実施	
			個人情報の適切な運用、監査	

この活動を通じて、「環境負荷軽減を目指した企業活動とイベント制作」「だれもが安心・安全に一緒に楽しめるイベント制作」

「イベントを通じたコミュニケーション創出の中心的な役割を担う企業」「ステークホルダーや社会らの信頼獲得」につなげていきます。

ENVIRONMENT 環境

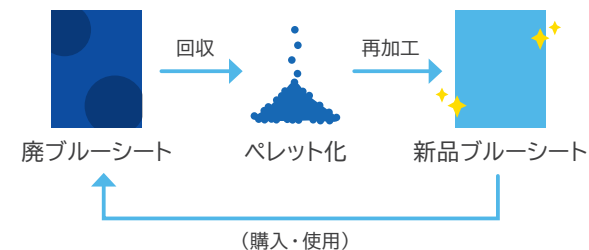
環境への取り組み

ブルーシート水平リサイクル

養生などで使用する機会が多く、これまで短期使用後に廃棄されていたブルーシートの水平リサイクルに取り組んでいます。ポリエチレン以外の含有量が少ない、リサイクルに適した国産ブルーシートを導入。使用後は廃棄せずに埼玉物流センターに集約し、メーカーが回収、ペレット化することで、ブルーシートに再生されます。同じく年間の使用機会の多いターポリンにも循環型の代用品の導入※を進めています。

協力：萩原工業株式会社

※「愛媛ねりんびっく（2023年10月28日～31日）」333kg回収



産業廃棄物排出量測定

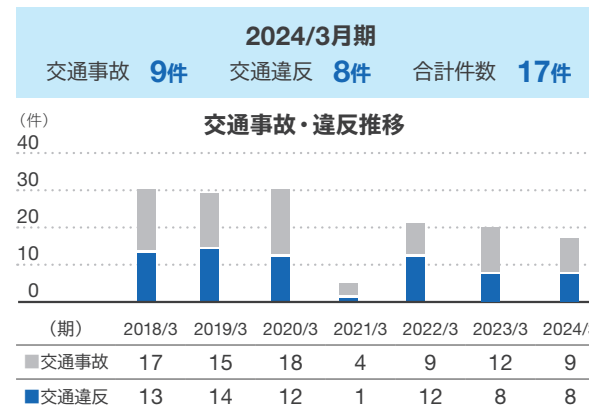
イベント制作に伴う産業廃棄物排出抑制に向けて、産業廃棄物排出量の測定を開始しました。自社による産業廃棄物排出量を把握しながら、適切な管理と抑制に努めてまいります。

SOCIAL 社会

安心・安全の確保

交通事故・違反ゼロ

交通事故・違反は関わった全ての人を不幸にするもので、これをゼロにすることを目指しています。近年の車両運転離れに対して新入社員の運転研修を行っており、企業ドライバーとしての意識を高めています。また、安全意識の継続のために月ごとに重点項目を決めて全部署に展開し、交通事故・違反発生時には再発防止に向けた注意喚起を行っています。これからも交通事故・違反ゼロを目指して活動していきます。



安全・品質向上推進大会

2013年より安全・品質向上推進大会を開催しています。安全・安心を提供し安全第一でイベントを作ることが最も重要と考えており、本大会では、事故推移報告にて振り返りと対策、事故事例の紹介、また年度ごとの安全重点項目を、協力会社の皆さまと共有し安全管理の強化に努めております。安全・安心を最優先し経営理念である「イベントを通じて自らを含む周囲の幸福を実現し、笑顔のある明るい社会づくり」に貢献してまいります。



陸上部

セレスポは、国が推進するスポーツ振興の取り組みに賛同し、2013年に陸上部を設立しました。現在は4名の選手が所属しており、日々、トレーニングと競技大会への出場、所属先での業務に励んでいます。セレスポ陸上部は、アスリートの自己実現によるスポーツへの興味喚起を促すとともに、地域の子供たちへ陸上教室などのスポーツ普及活動にも取り組んでいます。



Webサイト 陸上部紹介ページ

<https://www.cerespo.co.jp/company/trackclub.php>



SOCIAL 社会

人材育成

研修・教育

価値創造を担う人材育成を目的に社内研修を実施しています。近年では特定の社員を対象に研修を提供するのではなく、参加を希望する社員を募って研修を実施する公募研修も取り入れて、成長意欲のある社員に受けてもらうことで、実効性の高い研修としています。

研修内容はさまざまで、イベントと異なる市場ニーズに対応する事業を開発し、社内の成長意欲を醸成する「新規事業創造プログラム」や、次世代のリーダーとなる自走式人材を創出させるため、会社の中期経営計画の先を見据えた課題解決策を考える「自走人材課題解決力向上プログラム」を実施しました。対象者は少人数でしたが研修で学んだスキルに関して実践的に理解度を高められています。また、法令を含めたルールを順守する重要性を浸透させることを目的として全ての所属長にコンプライアンス研修を実施しています。

さらにセレスポでは専門性の向上、業務レベルの底上げを目的に、推奨資格の設定と資格手当制度、自己啓発の費用補助等の制度を導入しています。資格手当は業務に関わる特定の資格を持つ社員に毎月一定額を給与に上乗せして支払います。自己啓発の費用補助は、セミナー受講料や資格取得時にかかる費用の一部を会社が補助します。自身の自己啓発やスキルアップに積極的に取り組めるよう、制度環境を整えています。



働くママの職場環境

セレスポは従業員が指示を待ち行動するのではなく、自分に課せられた役割や期待を理解して自ら行動できる「自走人材」として成長できるよう日々努めています。働くママ社員も同様に結婚や出産、育児という生活環境の中で、自分に課せられた期待に応えながら働く女性が多く存在します。

そのような社員の声を受け、育児を経験した先輩ママと育児真只中の社員、これからママになる予定の社員、さまざまな立場の社員が気楽にランチをしながら情報共有する環境を作りました。話題は保育園、学童事情や、働きながら通わせられる習い事情報、自身の担当イベントの早朝勤務や出張時の対応、今後のキャリアについてなど、多岐にわたります。最近では多くの働くママの見本になる社員が社内でMVPを受賞し、働くママでも会社に貢献できると勇気づけられたという声もありました。今後も社員の声を拾い、よりよい職場環境を構築していきます。



多様な働き方

近年、働く人一人ひとりがそれぞれのワークライフバランスを追求し、望むライフスタイルも人それぞれ異なります。セレスポでも社員がさまざまなライフイベントを迎えたときに働き続けられる様、社会の動きに合わせた働き方の制度を取り入れています。近年では「選択型週休3日制度」と「失効年休積立制度」を導入しました。主に自身の病気や家族の介護に対する支援制度の拡張を目的としており、「選択型週休3日制度」は平日休みを希望する声を基に設計しました。「失効年休積立制度」は、消滅する有給休暇を積み立て、必要な時に利用できる制度です。今後も働き方の選択肢を増やし、社員が安心して働き続けられる環境を整備していきます。



SOCIAL 社会

ダイバーシティ&インクルージョン

イベントにおけるLGBTQ+ハンドブック

LGBTQ+当事者が安心して楽しめるイベントを制作していくことをサポートする「イベントにおけるLGBTQ+ハンドブック」を作成しました。セレスポは、1990年代よりイベント会場におけるバリアフリーに取り組みはじめ、現在までに、さまざまな特性を持つより多くの方が参加でき、楽しむことのできるイベント制作に取り組んできました。

LGBTQ+については、2023年6月、「LGBT理解増進法」が成立し、性的マイノリティへの理解増進や環境整備が必要な社会になってきています。また、社員からもイベントをより良いものにしていくためにはLGBTQ+への理解を深めた方がよいとの声が出たことから、本ハンドブックの作成に着手しました。

本ハンドブックは、LGBTQ+に関する基礎知識やイベント制作における配慮事項等をまとめたものとなっており、セレスポ社員のLGBTQ+への理解を促し、イベントにおける対応力向上につなげていくことを目的としています。作成にあたっては、社内において配慮が必要と思われる場面やLGBTQ+当事者が実際に直面した出来事などについて対話を重ね、LGBTQ+の人も働きやすい職場環境作りを行っている株式会社アカルクのアドバイスをいただきました。



PARAFAN

2024年5月にパラスポーツの支援と認知度向上を目的として株式会社ワントゥーテンとPARAFAN PROJECT（以下、本プロジェクト）を開始しました。本プロジェクトは、セレスポがこれまで行ってきたパラスポーツのサポートやイベントを通じたDEI推進に関する取り組みとなります。パラスポーツのアスリートとファンによるコミュニティサイト「PARAFAN」を軸としたアスリートとファンの活動・交流・支援の輪を広げていくことで、パラスポーツ環境の醸成を図ります。

PARAFANは、本プロジェクトに賛同するパラスポーツのアスリートやアンバサダーが登録し、自身の活動報告や新たな活動の提案をしていくものです。パラスポーツやアスリートのファンは、PARAFANに登録することでアスリートとの交流や支援ができるようになり、アスリートの活躍機会の増加につながります。こうした関係性を社会に広めていくことで、パラスポーツの認知度向上やアスリートの社会参画につながります。



今後は、本プロジェクトに賛同する企業にも参画いただくことで、事業機会を増やし、アスリートの活動領域の拡張にも取り組んでいきます。この取り組みを進めることで、パラスポーツによる社会貢献サイクルをより大きなものとしていきます。

サイト名称：PARAFAN（パラファン）

<https://www.parafan.jp/>

主なコンテンツ：パラスポーツ専用SNS、月額・都度支援、グッズ販売EC機能



PARAFAN共同事業者
株式会社ワントゥーテン
代表取締役社長
澤邊 芳明

このたびセレスポさんと一緒にパラスポーツ選手を支援するためのコミュニティサイトPARAFANをオープンさせていただきました。これは、これまで大きな課題となっていた、選手たちの活動資金をサポートするための大きな一歩になります。コアファンを増やし、皆さまのサポートによって選手たちが、スポーツ用具購入や遠征のための費用を獲得できるようにするためのものです。もちろん、金銭的なサポートのみならず、ファンの皆さんの応援が選手たちの力になります。私の知る限り、これは、世界初の試みです。既に続々と選手や選手の卵の方々が登録いただいています。この素晴らしい取り組みを、この活動を支援していただける企業様や自治体と長い目線で発展させていきたいと思っています。ぜひ皆さまもご登録をお願いします。

GOVERNANCE ガバナンス

コーポレートガバナンス体制

基本的な考え方

当社は「セレスポの幸福」の実現に向け、中長期的な企業価値の向上とステークホルダーとの良好な関係の維持・発展に努めております。次の考え方に基づき、コーポレートガバナンスの充実に継続的に取り組んでまいります。

- 1 健全性と透明性が確保された迅速な意思決定を可能とする体制整備を進める
- 2 株主の権利を尊重し、平等性・透明性を確保する
- 3 会社情報を適切に開示する
- 4 株主総会を株主との対話の場と位置付け、株主視点に立った真摯な対応を実践する
- 5 SDGsへの取り組みを進めることで企業理念の実践に努める

内部統制システムの強化

当社は、会社法に基づき「内部統制システム構築に関する基本方針」を定めており、取締役会はその整備状況を確認・検証し、必要に応じて見直しを行っております。

取締役会

取締役7名（うち、社外取締役1名）、監査役3名（うち、社外監査役2名）で構成され、月1回以上開催。

経営に関する重要事項を審議・決定しております。

監査役会

監査役3名（うち、社外監査役2名）で構成され、月1回以上開催。

監査役会で定めた監査方針に基づき、取締役の業務執行の監督を実施するほか、重要な社内会議での意見陳述を行っております。

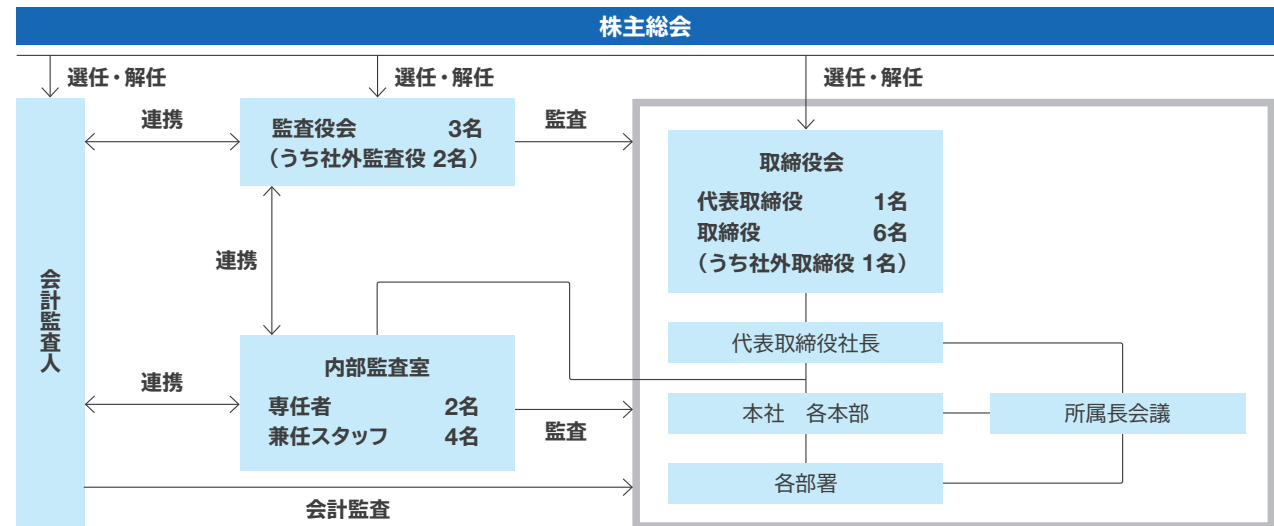
役員ミーティング

代表取締役、取締役で構成され、適宜開催。取締役会に準ずる機関として、重要事項の審議・検討を行っております。

所属長会議

代表取締役、取締役、監査役、各部門および各部署の責任者で構成され、原則月1回開催。各部門の業務執行状況の管理、部門間での情報共有ならびに相互チェックを実施しております。

コーポレートガバナンス体制図



OFFICERS

役員紹介



代表取締役社長 **田代 剛**

1964年生まれ。1983年、株式会社セレスポ入社。名古屋支店長として中部エリアの営業力および施工力強化に取り組む。2007年、取締役就任。行幸啓行事をはじめとする大型案件の元請受注環境を確立し、競争事業を牽引する。2022年、代表取締役社長就任。社会変化に適応し続けられる「強固」で「強靱」な組織づくりに取り組む。



常務取締役 **生田 茂**

1963年生まれ。1982年、株式会社セレスポ入社。営業・施工の幅広い分野に従事し、東京支店長、生産本部長を歴任。2015年に取締役就任後は事業支援部長として全社にわたる業務構造改革を推進。2019年、常務取締役就任。現在、事業本部長として中長期の事業戦略立案およびそれにに向けた組織体制の強化を担当し、企業価値向上に取り組む。



常務取締役 **堀貫 貴司**

1961年生まれ。株式会社三菱銀行にて国内支店長などを歴任。2013年、執行役員経理部長として株式会社セレスポに入社。2014年、取締役に就任。本社部門の組織体制の整備に尽力。2022年、常務取締役に就任し、コーポレート本部長として法務、財務、会計、人事、IRなど管理部門関連業務全般を幅広く管掌する。



取締役 **松田 英彦**

1962年生まれ。1985年、株式会社セレスポ入社。東京支店長やさいたま支店長などを歴任。イベント制作の現場責任者として営業・制作に関する幅広い業務に従事。2019年、取締役就任。現在、事業本部副本部長として営業開発および社外連携を推進するとともに、全社にわたる営業関連業務の支援を担当する。



取締役 **林 秀紀**

1974年生まれ。1996年、株式会社セレスポ入社。愛知支店長や名古屋支店長を歴任。営業分野において幅広い業務に従事。2018年、執行役員就任後は、全国の営業拠点を牽引。2021年、取締役就任。2022年、コーポレート本部副本部長就任。2024年、事業本部副本部長兼事業支援部長就任。事業支援部内全般を担当するとともに2025年大阪・関西万博に向けた業務推進を担当する。



取締役 **小林 哲也**

1971年生まれ。1994年、株式会社セレスポ入社。関西施工センター支店長や大阪支店長を歴任。営業分野において幅広い業務に従事。2022年、執行役員就任後は、その卓越した見識と実績を生かし、全国の営業拠点を牽引。2024年、コーポレート本部副本部長就任。現在、管理部門全般を担当する。



社外取締役 **奥田 かつ枝**

1963年生まれ。三菱信託銀行株式会社にて不動産開発、国際部門予算・財務管理を担当。その後不動産鑑定業界に転じ公益社団法人日本不動産鑑定士協会連合会常務理事などを歴任。現在、株式会社九段緒方総合鑑定代表取締役、株式会社シーアールイー社外取締役、マルハニチロ株式会社社外取締役、国土交通省審議会専門委員などを兼務。法務、経営、財務など幅広い知見を有する。

OFFICERS 役員紹介



常勤監査役 **中澤 龍男**

1957年生まれ。日産自動車株式会社において豊富な国際経験を有する。2001年に株式会社セレスポ入社。人事、総務、内部監査、営業、営業支援と多様な業務を歴任。2021年、監査役就任。豊富な経験と広い見識を生かし、監査役として株主の目、法律の目、社会の目の3つの目を働かせ、実効性の高い監査を行う。

社外監査役 **石川 浩平**

1981年生まれ。監査・会計・コンサルティング等に精通しており、公認会計士として、星山税理士事務所、御成門公認会計士共同事務所、監査法人アリア、有限責任監査法人トーマツに在籍。現在は監査法人FRIQ代表パートナーを務める。2022年、当社補欠監査役を経て、2023年、当社社外監査役就任。豊富な経験と実績により、監査役として公正中立且つ実効性の高い的確な提言を行う。

社外監査役 **遠藤 直子**

1978年生まれ。弁護士として企業法務の分野に精通し、幅広い経験を有している。2001年、第一生命保険相互会社入社。2007年、司法修習生採用を経て、2008年、弁護士登録、弁護士法人小野総合法律事務所入所。2019年、日本カーバイド工業株式会社 社外取締役就任。2023年、当社社外監査役就任。豊富な経験と法務に関する広い見識により、監査役として公正中立且つ実効性の高い的確な提言を行う。

取締役・監査役の専門性

	企業経営	事業戦略	営業・マーケティング	財務・会計	法務・リスクマネジメント	人事・労務	情報システム	サステナビリティ	イベント制作
田代 剛	■	■	■		■			■	■
生田 茂	■	■	■			■		■	■
堀貴 貴司	■			■	■	■	■		
松田 英彦	■	■	■				■	■	■
林 秀紀	■	■	■				■		■
小林 哲也		■	■						■
奥田 かつ枝	■			■	■	■			
中澤 龍男				■	■	■			
石川 浩平	■			■	■				
遠藤 直子	■				■	■			

執行役員

執行役員 事業支援部副部長	朝比奈 徳洋
執行役員 さいたま支店長	志賀 幹彦
執行役員 SP・PR イベントオフィス支店長	唐沢 洋平
執行役員 経理部長	久保田 裕
執行役員 人事総務部長 兼 広報室長	越川 延明
執行役員 パブリック事業部長	平山 正人
執行役員 東京支店長	作永 博貴

MESSAGE FROM an 社外監査役メッセージ

OUTSIDE CORPORATE AUDITOR

セレスポの「復活」に向けて、社外監査役としての役割を果たします。

弁護士としての経験を活かし、 コンプライアンス強化に貢献します。

2023年6月にセレスポの社外監査役に就任し、1年が経過しました。私はこれまで、弁護士として、多様な企業から日常的に各種の法律相談を受け、時には、企業の存続に関わるような重大な問題についての相談に対応してきました。近年、コンプライアンスの重要性が事あるごとに指摘され、多くの企業において、企業の存続のためにはコンプライアンスが重要であることが認識されていますが、そのような中でも企業の不祥事は繰り返されています。コンプライアンスの強化のためのガバナンス体制の整備は、どの企業においても重要な経営課題に位置付けられているといえます。セレスポにおけるコンプライアンス強化といった観点において、これまでの私の経験による知見を役立てられればと思っています。

コンプライアンスが重要視されるのは、企業には「企業の社会的責任（CSR=Corporate Social Responsibility）」を果たすことが求められており、CSRを果たすためには、コンプライアンスが前提となるためです。コンプライアンスに沿って行動する最大の目的は、「企業が社会から信用を獲得し、企業価値を維持すること」にあります。自社の利益ばかりを追求するのではなく、自社の事業が社会に与える影響について考え、あらゆる利害関係者からの要求に応え

られるよう行動することが企業には求められています。コンプライアンスに沿って行動している企業は、企業価値を維持し、顧客や取引先の離脱を防止することにもつながっていくことになります。

セレスポの強みである「現場力」 のさらなる発揮に期待します。

2024年3月期の業績は厳しいものとなりましたが、そうした中でも、受注したイベント業務において、セレスポの強みである「現場力」を発揮し、「セレスポに任せてよかった」と言ってもらえた案件が多くあったと聞きました。長年にわたって蓄積してきた経験と実績を踏まえた「現場力」により、個々のイベントを通じて顧客から信頼されて仕事を任されることがセレスポの今後の成長につながるものと期待しています。

また、現在取り組んでいる「自走人材の育成」も、中堅、若手社員の成長につながるものであり、セレスポの今後の成長に大きく貢献するものといえます。これまでの取り組みをさらに進めていくことが期待されます。

2025年3月期は、復活に向けて、全社一丸となって業績の回復を果たす年と位置付けられています。中長期的な企業価値の向上が株主を含めたステークホルダーの保護につながることでありますので、復活を果たし、次期中期経



社外監査役
遠藤 直子

営計画においてさらなる成長戦略を描いていけるよう、執行側による適切な経営判断がされることを見守りつつ、社外監査役の立場から貢献していければと思います。また、そのような成長戦略の中でも、コンプライアンスの観点が抜け落ちることのないよう社外監査役としての役割を果たしていきたいと思います。

会社情報（2024年3月31日現在）

商 号	株式会社セレスポ 英文社名：CERESPO CO.,LTD.
証券コード	9625
本 社	〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5 TEL：03（5974）1111／FAX：03（5394）7651
設立年月日	1977年7月21日
資本金	13億7,067万円
事業内容	1 イベント、プロモーション、スポーツ大会、式典、レクリエーションの企画、制作、会場設営、運営および進行 2 上記に関わる物品・什器備品の企画、開発、製造、販売およびレンタル 3 土木ならびに建築の設計監理および施工 4 警備業 5 上記に附帯する一切の業務
登録・許可	建設業許可：東京都知事 許可（特）第140322号 一級建築士事務所：東京都知事登録 第42544号 警備業認定：東京都公安委員会 第30003046号 屋外広告業登録：東京都屋外広告業登録 都広第1137号 プライバシーマーク：第17000187号 ISO20121認証取得
従業員数	388名

株式情報（2024年3月31日現在）

株式の状況		
発行可能株式総数	22,000,000株	
発行済株式総数	5,703,500株	
株主数	3,371名	
大株主		
株主名	持株数（株）	持株比率（％）
株式会社スマイル	1,100,000	20.17
セレスポ従業員持株会	266,916	4.89
上田八木短資株式会社	157,500	2.89
稲葉 利彦	146,202	2.68
野村證券株式会社	105,500	1.93
磯野 正美	84,000	1.54
北原 美子	80,000	1.47
田代 剛	65,122	1.19
山下 良久	61,200	1.12
株式会社三菱UFJ銀行	55,000	1.01

（注）上記大株主以外に当社が250,327株（所有株式数の割合4.39％）を自己株式として保有しております。

さらに詳しい会社情報は、セレスポのコーポレートサイトにてご覧ください。
<https://www.cerespo.co.jp/>

